

中心部震災メモリアル拠点（災害文化エリア）



▲災害文化エリア（2・3階）。交流ロビーの吹き抜けを諸室が円環状に囲むように配置されることで、展示を見る・活動する・交流するといった多様な体験が一連のものとしてつながります

●災害文化とは
災害は発生するものと認識し、災害が起きてもそれを乗り越えていく文化のこと。防災・減災と重なる部分も大きいですが、災害への備えを生活に溶け込ませることや災害の記憶・知見の継承、そして、災害から立ち上がる力を育むことを含みます。

●災害文化の創造拠点
災害文化エリアには、展示や多目的交流スペース、市民交流スペースなどを設置。東日本大震災の経験と教訓から、将来の災害を乗り越える知恵や術を生み出し、広めていく役割を担います。

●音楽ホールと複合する意義
心に癒やしを与え、記憶や体験をつなぐ文化芸術の力を、災害文化の創造・発信に生かすことができます。また、文化芸術と災害文化が交わることで多様な交流やアイデアが生まれ、この施設ならではの新しい価値の創造につながります。

事業費と経済波及効果

●整備事業費の見込み ※今後の物価上昇分を除く

建設工事費	582億円	コスト抑制の取り組み 施工者のノウハウを生かした設計を進めるため、設計段階から施工者が関与するECI方式という整備手法を導入する予定です
設計・監理費	30億円	財源について 国庫補助金の活用を検討を進めるほか、ふるさと納税による資金の調達など、実質的な本市の財政負担の軽減を図ります
関連整備費	34億円	
合計	646億円	

●来場者数・経済波及効果の推計

施設の魅力を最大限に活用し、観光施策と連携することで経済波及効果を高めていきます。

来場者数見込み（年間）	約72万人
上記のうち県外来場者数見込み（年間）	約11.8万人
県内の経済波及効果（年間）	約87億円

施設概要

- 所在地 仙台市青葉区青葉山2-1、2-4、2-5
- 階数 地下2階、地上4階
- 延床面積 約28,900平方メートル
- 建物高さ 29.5メートル
- 設計者 藤本壮介建築設計事務所
- 開館予定 令和13年度

開館に向けた取り組み

開館後の事業のモデルとなり、多くの人に施設の意義を実感できるプレ事業に取り組んでいます。

●文化芸術

▲親子で楽しめる音楽イベントで文化芸術に触れる「青葉山おんがくひろば」

●災害文化

▲震災からの15年を改めて考え、災害文化を語り合う「くらしともじもの研究所」



さらに詳しく知るには

●市民説明会・シンポジウムを開催します

内容	日時	会場	定員
①市民説明会 (基本設計などの概要の説明)	5/13(水) 18:30~20:30	せんだいメディアテーク7階	各150人(先着)
	5/23(土) 10:30~12:30	中小企業活性化センター(アエル5階)	
②シンポジウム (市長と設計者の藤本壮介氏による説明など)	6/6(土) 14:00~	日立システムズホール仙台	200人(先着)

- ①直接会場へ
- ②の5月11日9:00から電話または市ホームページで



●ホームページ・動画を公開中

検討経過やよくあるご質問への回答、施設開館に向けたプレ事業などを紹介する動画を掲載しています。



市ホームページ



音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点複合施設 人・文化・まちを育む創造の広場に

文化芸術×災害文化
市では、青葉山エリアにおいて、文化芸術と災害文化の創造・発信の場として、多くの人が訪れ、交流する拠点となる複合施設の整備を進めています。
これまで本市には大編成のオーケストラや本格的な舞台芸術に対応できる大規模のホールがなく、長年多くの市民や地元経済界からその設置を望む声が寄せられていました。また、東日本大震災以降、その経験と教訓を次世代に継承する震災メモリアル拠点の整備について検討してきました。
震災からの復興過程において、文化芸術の力が再認識されたことを踏まえ、令和4年に音楽ホールと震災メモリアル拠点の複合整備が決定。これまでシンポジウムやワークショップなどで、施設の在り方などが話し合われてきました。今年3月には、基本設計に加え、施設の運用方針などを定めた管理運営指針を策定しました。今後、市民の皆さまとの対話の場を設けながら、整備を進めていきます。

音楽ホール（ホールエリア・文化芸術エリア）



▲コンサートホール形式（舞台より）



▲コンサートホール形式 ▲プロセニウム劇場形式

大ホール

●2,000席規模の高機能ホール

全国的に、大編成オーケストラや本格的な舞台芸術公演の会場としては2,000席が一つの目安となっており、これまで仙台でできなかった公演が実現します。

●コンサートホール形式・プロセニウム劇場形式に転換可能

音楽だけでなく、オペラやバレエなどの多様な公演が可能となり、地域の文化芸術の力を高めます。

●生音を重視

人の声や人が奏でる楽器などの、生の音に対する優れた音響性能を備えます。

小ホール

●多様な用途に対応した約350席のホール

生音の響きを重視するとともに、演劇、舞踊、演芸など、舞台芸術にも利用できます。

このほか、発表会での利用も想定したりハーサル室や大中小の練習室（12室）、ワークショップスタジオを備えます。



この特集に関するお問い合わせは、青葉山エリア複合施設整備室 ☎214・6139、FAX213・3225